

※ 学校評価から見た学校経営の重点と努力内容(511名/590名)

○温かみのある学級づくり

- (6) 学校に行くのは楽しいと思う C+D 5.7P 29名 → A+B 100%を目指す
- (11) いじめられたり、無視されることがなく安心して活動できている C+D 0.8P 4名 → 0名を目指す

○満足感のある授業

- (2) 授業はわかりやすいと思う C+D 5.1P 26名 → 自分の教科はどうか
- (3) 授業では、自分の考えを持ち、自ら取り組んでいる C+D 12.6P 64名 → 授業改善を進める
- (4) 授業では、自分で考えたことやわかったことを表現することができている C+D 20.5P 105名 → 授業改善を進める

○心と体の教育の推進

- (7) 学校や学年の行事に関心を持ち、進んで取り組んでいる A+B 93.1P 475名 → A+B 100%を目指す
- (8) 生徒会・委員会活動に関心を持ち、進んで取り組んでいる A+B 78.7P 401名 → A+B 100%を目指す
- (13) さわやかな挨拶ができている A+B 93.3P 476名 → A+B 100%を目指す

項目	<分析> ○成果、▲課題	<改善策> □後期(継続・改善)、■来年(発展・変更)
温かみのある学級づくり	○ 生徒の学校教育アンケートでは、「さわやかな挨拶ができている」に対して「よくあてはまる」43.9%、「あてはまる」49.4%をあわせて93.3%となった。さわやかな挨拶を心がけている生徒が増えてきている。	□ ・生徒会や各学年日代表の取組の成果が出ている。引き続き「さわやかなあいさつ」を全校生徒ができるような取組を続けていく。また、引き続き意識させるとともに、教師も自ら爽やかな挨拶を心がけ、やってみてやらせて褒めて育てる。
	○ 「学校に行くのは楽しい」という肯定的な回答が93.3%で、R5後期より微増であった。	□ ・アンテナを高くして生徒の状況把握、情報共有、相談、即時対応する。「楽しくない」生徒に寄り添って状況改善を目指す。
	○ 教員の学校教育アンケート「気になることを話す機会を持つように努めている。」では、肯定的な回答が92.6%とR5後期より10.4%上昇している。	□ ・教職員が生徒達と関われる時間を捻出するために、各分掌からのアイデアをもらうなどして行事の精選等を今後も進めていく。
	○ 「いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できる」では、99.3%が、肯定的な回答をしている。また、「自分の周りにいじめやからかいがあったときには、どのように(誰に)知らせればよいか知っている」では、94.5%が、肯定的な回答をしている。	□ ・お互いを認め、温かい雰囲気の中で学校生活が送れるような学年集団を作っていく。担任だけでなく、全員が担任をするという意識で生徒に関わっていく。「よくあてはまる」の割合を80%をめざす。
満足感のある授業	○ ▲ 「授業がわかりやすいと思う」では、94.9%が、肯定的な回答をしているが、学年によって差がある。	□ ・授業の中で生徒の様子をみとり、教え合う時間や個別指導の時間を入れながら、少しでも多くの生徒がわかる授業にしていこう。
	○ 学校教育活動についてのアンケート「授業がわかりやすいと思う」は、肯定的な意見が94.9%→94.9%と変わらず高い結果になっており、「よくあてはまる」は33.7%→38.5%と増加している。	□ 生徒の授業についてのアンケート「授業の内容はよくわかる」は、全教科を通してみると、肯定的な意見が93.4%→90.8%と少し減少している。
	○ ▲ 生徒の授業についてのアンケート「自分の考えをもち、伝え合うことができる」は、全教科を通してみると、肯定的な意見が88.3%→85.7%と少し減少している。	□ 1学期は重点項目①「自分の考えをもつ手立て」に重きを置いて取り組んできた。「伝え合う」や「表現する」という項目で肯定的な意見が少ない傾向が見られる。生徒は考えたことを伝えたいと思っていることを教員が意識して2学期以降の授業改善に取り組んでいきたい。
○ ▲ 学校教育活動についてのアンケート「家庭学習の習慣が身につけてきている」は、生徒の肯定的な意見は79.3%→80.9%と少し増加している。しかし、保護者の肯定的な意見は62.3%→61.3%と少し減少している。	□ 多くの生徒は家庭学習に継続して取り組むことができている様子であるが、生徒と保護者では認識にずれが見られる。家庭学習に取り組んでいるものの、その様子や内容に課題があるのではないかと考えられる。2学期に全学年で家庭学習パワーアップ週間に取り組み、家庭学習の量や内容の充実を図る。	
心と体の教育の推進	○ 「いじめられたり、無視されたりすることなく安心して活動できている」についてはA+B評価が生徒では99%を越えている。	□ あくまでもアンケート時点での状態であるということを忘れず、引き続ききめ細かく生徒の様子を見守っていく。
	○ 「さわやかな挨拶ができている」に対して「よくあてはまる」43.9%、「あてはまる」49.4%をあわせて93.3%となった。R5後期より6.4%増であった。	□ ・今後も生徒参加のあいさつ運動などの取組を継続して行い、「さわやかな挨拶」を意識させるとともに、教師も自ら「さわやかな挨拶」を心がける。
	○ ▲ 生徒アンケートの「中学生らしい身だしなみを心がけ、ルールやマナーを守っている」は96.9%だったが、「中学生らしい」という表現は学校生活のしおりに記載しておらず、時代の流れとともに変更が必要である。	■ 学校生活のしおりに合わせるのであれば、「公式の場にふさわしい」に変更したい。
	○ ▲ 「学校行事に関心」では「よくあてはまる」「あてはまる」合わせて93.1%だった。R5後期より2.5%減であった。また、「生徒会・委員会活動に関心」では「よくあてはまる」「あてはまる」合わせて78.7%だったが、R5後期より2.7%減であった。	□ ・3年生は中学生生活の集大成、2年生は後期以降の生徒会、1年生は進級に向けたリーダーの育成を目指すとともに、北星中学校の一員としてみんなで行事に取り組むよう働きかけたい。
	○ ▲ 生徒アンケート「自分の周りにいじめやからかいがあったときには、どのように(誰に)知らせればよいか知っている」について、A+B評価は低い数値ではないが、C+D評価が5.5ポイント(人数では28名)となっている。何もいから困っていないのかもしれないが、SOSの出し方について周知する必要がある。	■ いじめアンケート実施時に、裏面にいじめの定義や、そのアンケートを受けて学校としてどうように対応していくのかを記載し、担任からも説明を行うようにする。
○ ▲ 「日頃から安全に登下校ができるよう努めている」生徒のC+D評価が0.8ポイントに対して、保護者は9.9ポイントと開きがある。1学期期間中には、地域からご意見をいただくこともあったので、生徒の交通マナーへの危機意識の低さが懸念される。	■ 引き続き、様々なアプローチで交通マナーの啓発、指導を行っていく。具体的には個別指導、学年集会、全校集会、放送、学校だより、生徒指導だよりの活用を行っていく。	